議第４８号追加資料

市立高等学校･専門学校改革基本計画について

学校改革推進課

1　パブリックコメント、要望、陳情の状況

(1)　パブリックコメント

①　意見等の提出人数及び件数　　計 14 人、31 件

②　意見等に対する対応状況　　補足修正 4 件、既記載 1 件、説明・理解 17 件、事業参考 9 件

③　基本計画案補足修正内容

・外部人材のアドバイザー活用について、追記

・少人数学級（定員減）は、将来的な少子化を見据えた対応であること、少人数クラス編制によるきめ細やかな指導を実現することで、少子化時代の新たな学校のモデルケースとすること等について、記載を補足

・必由館高校の教育課程は、生徒が自身の興味関心や課題意識に応じて、より主体的に学ぶことができる編成とし、人文・国際のみに偏ったものではないこと等について、記載を補足

・多様な個性を持ち、市立高校及び専門学校で学びたいという意欲のある生徒を受け入れる方針であることについて、記載を補足

(2)　市長要望（P10 参照）

必由館高等学校生徒会長・必由館の未来について考える会代表より、熊本市立高校再編の延期・再検討を求める要望

〇要望内容（要旨）

熊本市立高校再編素案については、現場の生徒や卒業生などの声がほとんど入っていないという観点から延期・再検討を求める。グローバル探究科については、様々な人が幅広く学べる普通科としていただきたい。

(3)　議会陳情（P11 参照）

必由館高等学校同窓会「いてふ会」会長より、熊本市立必由館高等学校の中高一貫化に対する慎重審議を求める陳情

〇陳情内容（要旨）

改革の趣旨・方向性については概ね賛成するが、必由館高等学校の中高一貫化については、取りやめて、高校単独での特色化、魅力アップの施策を推進するよう議会で議論を深めていただきたい。

熊本市側は誠意をもって、しっかりと在校生や保護者、教職員、同窓会に説明し、真の理解を得てともに協力して改革を進めていけるよう、議会として働きかけていただきたい。

(4)　教育長要望・議会陳情（P11 参照）

必由館高等学校教職員より、現場の声を大切にした学校改革を求める要望

〇要望・陳情内容（要旨）

令和 5 年度という開校予定にもうしばらくの猶予をいただきたい。現在、市に準備組織があるが、本校職員も加わった形で現場準備室を立ち上げていただきたい。

２　基本計画策定にかかるこれまでの経緯

：生徒参加があったもの

期日	取組内容	概要
令和元年　６月	アンケート調査実施	市立小中学校の児童生徒及び保護者、県内高校生、県内企業を対象として実施
６月２４日（月）	第２回定例会教育市民委員会	検討スケジュール等について報告
７月３１日（水）	第１回検討委員会	会場：熊本市役所　議会棟
８月２２日（木）	定例教育委員会会議	第１回検討委員会の状況報告
９月２４日（火）	第３回定例会教育市民委員会	第１回検討委員会の状況報告
１０月　８日（火）	ワークショップ実施	会場：総合ビジネス専門学校（生徒 11 名参加）
１０月１５日（火）		会場：必由館高校（生徒 10 名参加）
１０月１６日（水）		会場：千原台高校（生徒 10 名参加）
１０月３１日（木） 令和２年　１月２１日（火） 令和２年　３月２６日（木）	第２回検討委員会 第３回検討委員会 第４回検討委員会	会場：熊本市役所　議会棟
１１月２８日（木）	定例教育委員会会議	第２回検討委員会の状況報告
１２月　９日（月）	第４回定例会教育市民委員会	第２回検討委員会の状況報告
令和２年　２月２７日（木）	定例教育委員会会議	第３回検討委員会の状況報告
４月２３日（木）	定例教育委員会会議	検討委員会答申の報告
９月　２日（水）	必由館高校校長ヒアリング	三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社（基本計画策定業務支援業者）による学校長ヒアリング
	総合ビジネス専門学校校長ヒアリング	
９月　３日（木）	千原台高校校長ヒアリング	
令和３年　２月　４日（木）	必由館・千原台高校、 総合ビジネス専門学校と意見交換	会場：各学校 対象：教職員
２月１８日（木）	千原台高校同窓会と意見交換	会場：千原台高校応接室
２月１９日（金）	総合ビジネス専門学校同窓会と意見交換	会場：総合ビジネス専門学校校長室
２月２２日（月）	必由館高校同窓会と意見交換	会場：必由館高校同窓会館
２月２５日（木）	定例教育委員会会議	計画素案について自由討議
３月１７日（水）	第１回定例会教育市民委員会	素案・パブリックコメントの実施について報告
４月１９日（月）	必由館高校生徒会長と意見交換	会場：必由館高校
４月２６日（月）	第１回高校・専門学校改革検討総括部会	教育委員会事務局及び関係校長による会議
５月２７日（木）	必由館高校生徒会長と意見交換	会場：必由館高校
	定例教育委員会会議	パブリックコメントの実施状況報告

５月２８日（金）	第２回高校・専門学校改革検討総括部会	教育委員会事務局及び関係校長による会議
５月２９日（土）	必由館高校同窓会と意見交換	会場：必由館高校同窓会館
令和３年　５月３１日（月）	必由館高校生徒会長要望書手交式	市長、教育長出席　会場：庁議室
６月　７日（月）	千原台高校生徒会・同窓会と意見交換	生徒３名出席　千原台高校
６月　８日（火）	千原台高校教職員と意見交換	会場：千原台高校
６月１０日（木）	総合ビジネス専門学校教職員・生徒と意見交換	生徒９名出席、オンライン同時実施
６月１４日（月）	総合ビジネス専門学校同窓会と意見交換	会場：ビジネス専門学校
	必由館高校教職員と意見交換	会場：必由館高校
６月１６日(水)	必由館高校生徒会と意見交換	生徒２名出席　会場：必由館高校
６月１７日（木）	第２回定例会教育市民委員会	パブリックコメント結果、今後の取組方針等について報告
６月１９日（土）	必由館高校同窓会と意見交換	会場：必由館高校同窓会館

※上記のほか、教育課程や選抜方法の検討を行う作業部会に、各校の教職員が参加

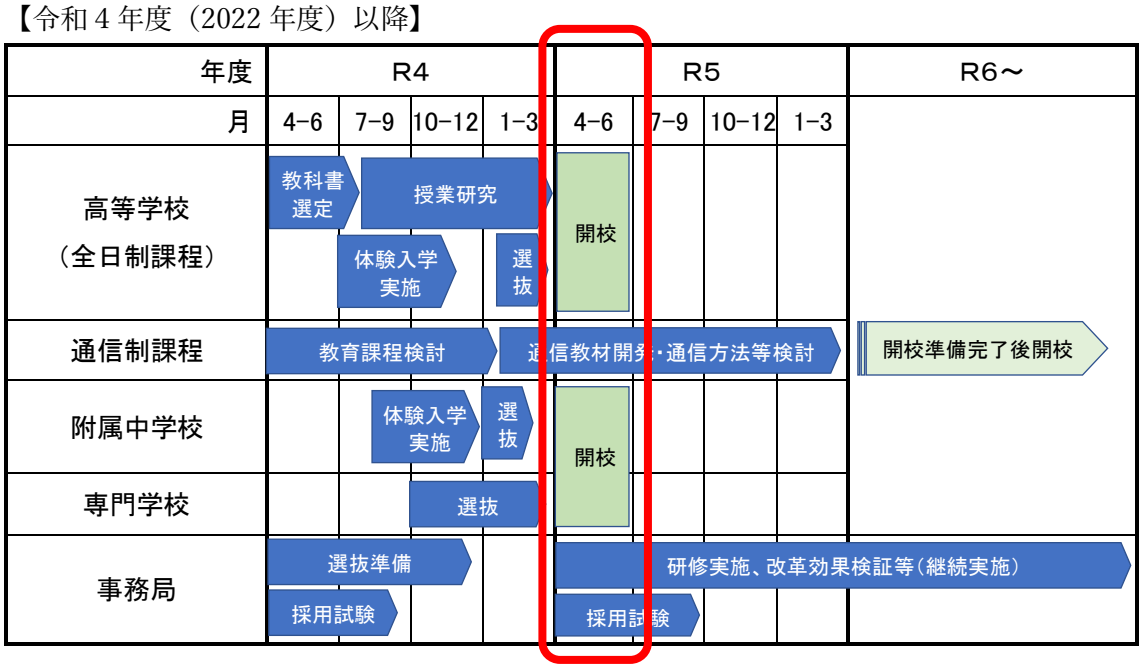
3　基本計画上のスケジュール（市立高等学校・専門学校改革基本計画素案より抜粋）

第５章　スケジュール（予定）

【令和３年度（2021 年度）】



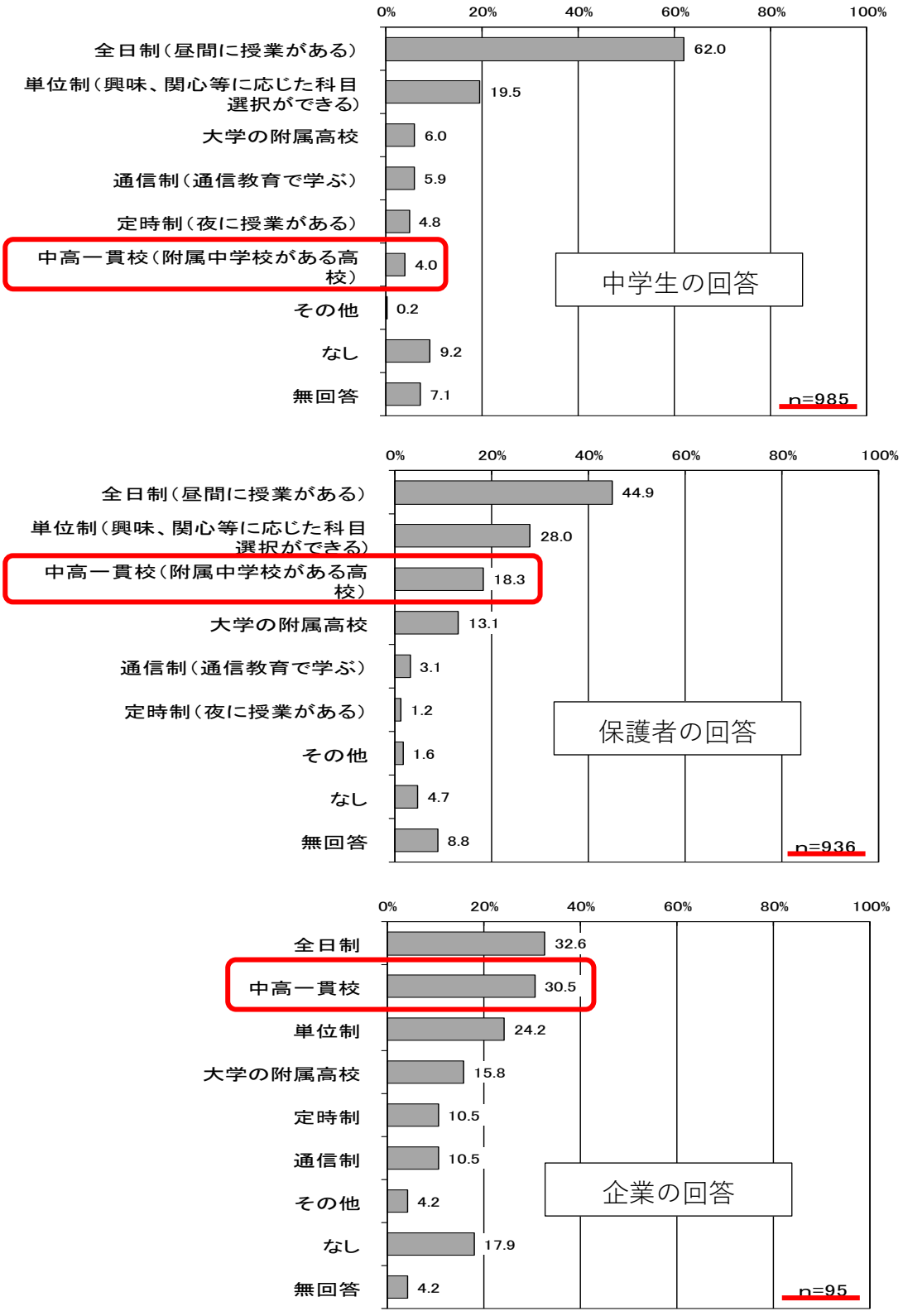
【令和４年度（2022 年度）以降】



4　【参考】必由館高等学校附属中学校設置に係るこれまでの検討状況（計画素案より一部抜粋）

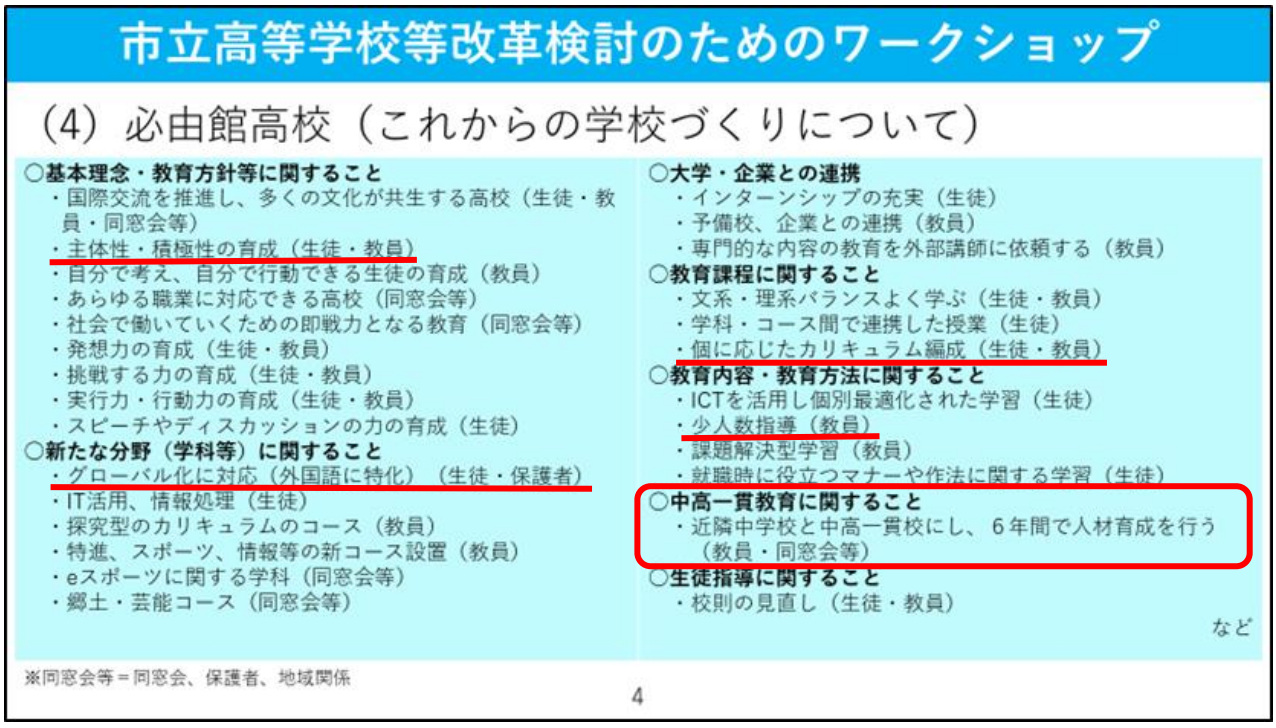
(1)アンケート調査結果（R1.6）

【行きたい/通わせたい/できたらよい と思う設置形態等（高校)】(複数選択)



※別途小学 6 年生にも実施　⇒　中高一貫校についての回答 6.3%（回答数(n)554）

（2） ワークショップにおける必由館高等学校に関する主な意見（R1.10）



市立高等学校等改革検討のためのワークショップ

（4）必由館高校（これからの学校づくりについて）

○基本理念・教育方針等に関すること
- 国際交流を推進し、多くの文化が共生する高校（生徒・教員・同窓会等）
- 主体性・積極性の育成（生徒・教員）
- 自分で考え、自分で行動できる生徒の育成（教員）
- あらゆる職業に対応できる高校（同窓会等）
- 社会で働いていくための即戦力となる教育（同窓会等）
- 発想力の育成（生徒・教員）
- 挑戦する力の育成（生徒・教員）
- 実行力・行動力の育成（生徒・教員）
- スピーチやディスカッションの力の育成（生徒）

○新たな分野（学科等）に関すること
- グローバル化に対応（外国語に特化）（生徒・保護者）
- IT活用、情報処理（生徒）
- 探究型のカリキュラムのコース（教員）
- 特進、スポーツ、情報等の新コース設置（教員）
- eスポーツに関する学科（同窓会等）
- 郷土・芸能コース（同窓会等）

○大学・企業との連携
- インターンシップの充実（生徒）
- 予備校、企業との連携（教員）
- 専門的な内容の教育を外部講師に依頼する（教員）

○教育課程に関すること
- 文系・理系バランスよく学ぶ（生徒・教員）
- 学科・コース間で連携した授業（生徒）
- 個に応じたカリキュラム編成（生徒・教員）

○教育内容・教育方法に関すること
- ICTを活用し個別最適化された学習（生徒）
- 少人数指導（教員）
- 課題解決型学習（教員）
- 就職時に役立つマナーや作法に関する学習（生徒）

○中高一貫教育に関すること
- 近隣中学校と中高一貫校にし、６年間で人材育成を行う（教員・同窓会等）

○生徒指導に関すること
- 校則の見直し（生徒・教員）

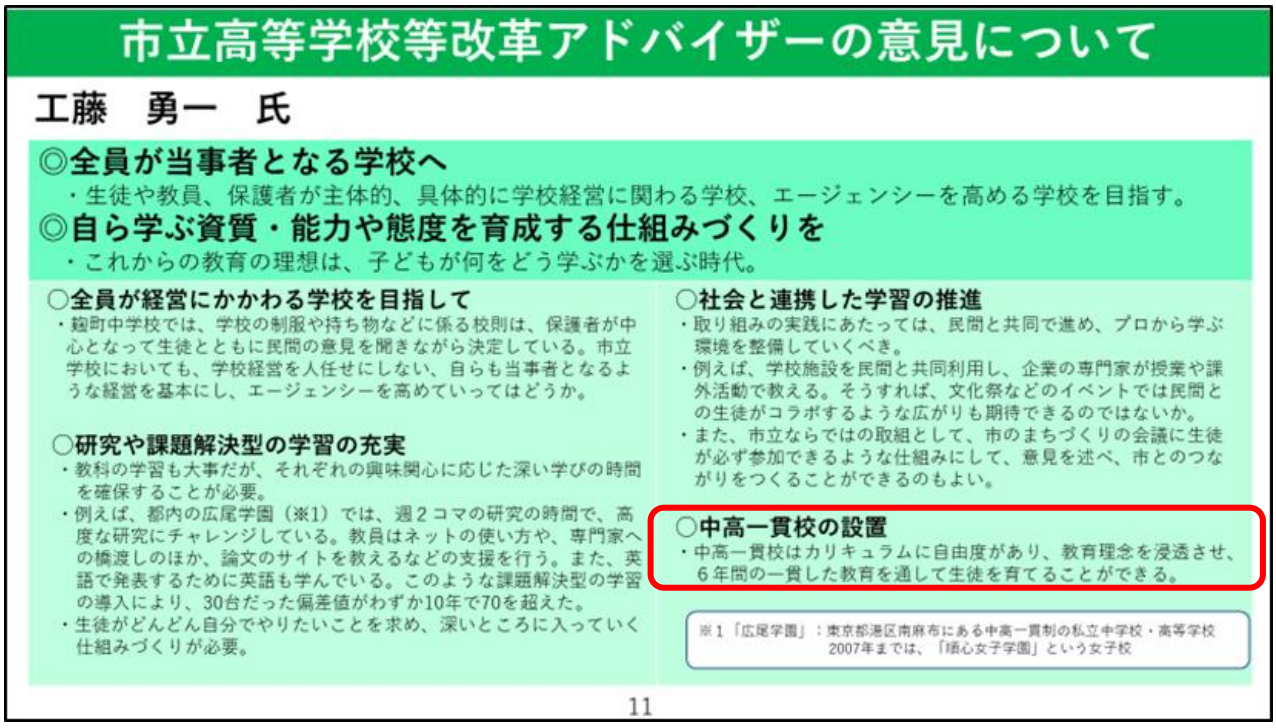
など

※同窓会等＝同窓会、保護者、地域関係

4

※必由館ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加者数 31 人（生徒 10、教員 10、同窓会 1、保護者 2、地域 1、検討委委員 7 人）

（3） 必由館高等学校に関するアドバイザーの意見（R1.10）



市立高等学校等改革アドバイザーの意見について

工藤　勇一　氏

◎全員が当事者となる学校へ
- 生徒や教員、保護者が主体的、具体的に学校経営に関わる学校、エージェンシーを高める学校を目指す。

◎自ら学ぶ資質・能力や態度を育成する仕組みづくりを
- これからの教育の理想は、子どもが何をどう学ぶかを選ぶ時代。

○全員が経営にかかわる学校を目指して
- 麹町中学校では、学校の制服や持ち物などに係る校則は、保護者が中心となって生徒とともに民間の意見を聞きながら決定している。市立学校においても、学校経営を人任せにしない、自らも当事者となるような経営を基本にし、エージェンシーを高めていってはどうか。

○研究や課題解決型の学習の充実
- 教科の学習も大事だが、それぞれの興味関心に応じた深い学びの時間を確保することが必要。
- 例えば、都内の広尾学園（※1）では、週２コマの研究の時間で、高度な研究にチャレンジしている。教員はネットの使い方や、専門家への橋渡しのほか、論文のサイトを教えるなどの支援を行う。また、英語で発表するために英語も学んでいる。このような課題解決型の学習の導入により、30台だった偏差値がわずか10年で70を超えた。
- 生徒がどんどん自分でやりたいことを求め、深いところに入っていく仕組みづくりが必要。

○社会と連携した学習の推進
- 取り組みの実践にあたっては、民間と共同で進め、プロから学ぶ環境を整備していくべき。
- 例えば、学校施設を民間と共同利用し、企業の専門家が授業や課外活動で教える。そうすれば、文化祭などのイベントでは民間との生徒がコラボするような広がりも期待できるのではないか。
- また、市立ならではの取組として、市のまちづくりの会議に生徒が必ず参加できるような仕組みにして、意見を述べ、市とのつながりをつくることができるのもよい。

○中高一貫校の設置
- 中高一貫校はカリキュラムに自由度があり、教育理念を浸透させ、６年間の一貫した教育を通して生徒を育てることができる。

※1「広尾学園」：東京都港区南麻布にある中高一貫制の私立中学校・高等学校
2007年までは、「順心女子学園」という女子校

11

(4)　市立高等学校等改革検討委員会答申内容（R2.3）（中高一貫校設置に係る記載について抜粋）

・中高一貫校の設置について

中高一貫校は、６年間の教育課程を通じて一貫した系統的な教育が実施できる制度である。例えば、グローバルな考え方や論理的思考力、深く探究する力などは、継続的・系統的な教育活動によって効果的に育成が図られると考えられる。

設置の形態としては、中学校段階と高校段階とが同じ生徒集団となる中等教育学校の設置や、附属中学校の新設など、複数のパターンがある。市教育委員会においては、設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする。

中高一貫校を設置する場合は、受験する児童の志望動機等が高等学校のイメージや評価、実績によって異なってくることを踏まえ、高等学校の改革後、一定の評価を得た段階で中高一貫校の設置について判断することも検討願いたい。

5　【参考】各校における生徒数について（1学年当たり）

学校名	現　行	改革後	備考
必由館高校	高校9学級360名	高校7学級210名 附属中学2学級50名	少人数学級編制により90名､附属中学校設置により60名、計150名減
千原台高校	5学級200名	全日制5学級160名 通信制80名程度	少人数学級編制により40名減
ビジネス専門学校	昼間部70名 夜間部20名	昼夜開講制70名	

※高校のクラス編制ついては、40人学級から30人学級へ変更（千原台高校スポーツ探究科除く）

※必由館高校附属中学は、25人学級

6　附属中学校（中高一貫校）の特徴等

（特徴・利点）

・少人数編制による、生徒の興味関心、進路に応じた探究的な深い学び、教育内容の個別最適化

・高校段階で探究リーダーとなる生徒の育成による、高等学校の探究学習の質的向上

・先進的な学習や指導方法等の得られた成果について、市内の全中学校へ広く普及

・本市が持つ中学校運営のノウハウを生かした取組実践、教員交流

・中学生が高校生の学習に触れる、高校生が学びなおしができる取組、学年交流によるプロジェクト

（現行案のデメリット・同窓会等の懸念事項）

・高校生生徒数の減少（△６０人）

・授業料収入、校納金収入（ＰＴＡ会費）、同窓会会費の減少

・中高生の住み分け、優秀な指導者の確保、文化・体育・部活動場所確保、部員確保

７　各学校との協議の状況について

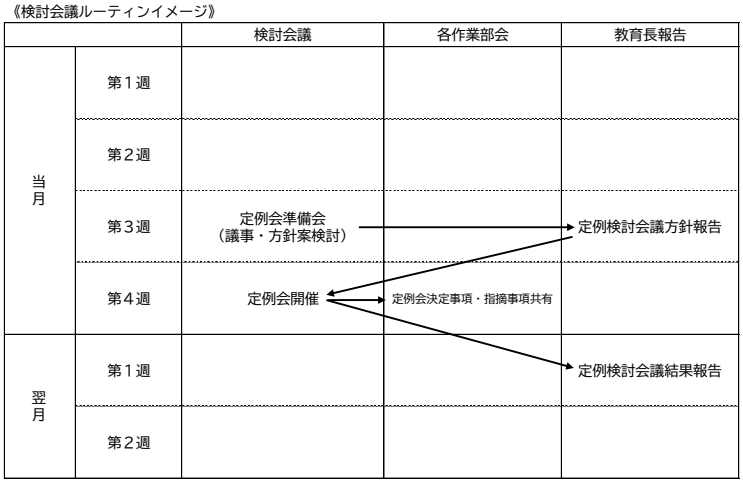
市立高等学校及び専門学校を魅力ある学校とすることを目的として、各学校を含む関係部署が改革に関する具体的な施策を総合的に協議し、情報共有や連携の強化を図りながら検討を行うため、市立高等学校・専門学校改革検討会議を設置（令和３年（２０２１年）４月より運用開始）

他にも、案件ごとに個別に各学校との協議を行っている。

検討会議

基本理念（スクール・ミッション、ポリシー）の検討・整理及び各作業部会の検討状況整理等全般的な事項		
議長	1	森江教育次長兼学校教育部長
	2	松島教育次長
	3	中村教育総務部長
	4	城野校長（必由館高校）
	5	南校長（千原台高校）
	6	古家校長（総合ビジネス専門学校）
	7	中元教育政策課長
	8	石加指導課長
	9	濱洲教職員課長
	10	廣瀬教育センター所長
	11	内村学校施設課長
	12	若杉総合支援課特別支援教育室長
	13	松永学校改革推進課長
	14	各作業部会長

《検討会議ルーティンイメージ》



(1)教育課程部会

各学校の教育課程、教育内容等の検討に関すること ※探究学習内容検討、関係機関連携検討含む		
◎	1	学校改革推進課主任指導主事
	2	指導課指導主事（教育課程、進路指導担当）
	3	教育センター主任指導主事（教科担当）
	4	教育センター主任指導主事（教育課程担当）
	5	教育センター主任指導主事（情報教育担当）
	6	必由館高校教務担当
	7	必由館高校進路担当
	8	千原台高校教務担当
	9	千原台高校進路担当
	10	総合ビジネス専門学校教務担当
	11	総合ビジネス専門学校進路担当
	12	指導課主査（高校担当兼学校改革推進課）
	13	指導課指導主事（高校担当兼学校改革推進課）
	14	学校改革推進課指導主事（専門学校担当）
	15	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	16	学校改革推進課指導主事（中学校担当）

(2)人事部会

教職員配置、採用、外部人材登用、交流等に関すること		
◎	1	学校改革推進課主幹
	2	教職員課主幹
	3	総合支援課特別支援教育室指導主事
	4	指導課主査（高校担当兼学校改革推進課）
	5	指導課指導主事（高校担当兼学校改革推進課）
	6	学校改革推進課指導主事（専門学校担当）
	7	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	8	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	9	学校改革推進課主任主事

(3)選抜部会

入学者選抜方法検討、問題作成方法等に関すること		
◎	1	学校改革推進課主任指導主事
	2	指導課主査（高校担当兼学校改革推進課）
	3	指導課指導主事（小中学校担当）
	4	教育センター指導主事
	5	必由館高校教務担当
	6	千原台高校教務担当
	7	総合ビジネス専門学校教務担当
	8	指導課指導主事（高校担当兼学校改革推進課）
	9	学校改革推進課指導主事（専門学校担当）
	10	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	11	学校改革推進課指導主事（中学校担当）

(4)教職員研修部会

教職員研修（教育支援含む）の在り方検討に関すること		
◎	1	学校改革推進課指導主事
	2	教育センター指導主事（校内研修担当）
	3	教育センター指導主事（情報教育担当）
	4	総合支援課特別支援教育室指導主事
	5	必由館高校教頭
	6	千原台高校教頭
	7	総合ビジネス専門学校教頭
	8	学校改革推進課指導主事（専門学校担当）

(5)附属中設置部会

附属中設置に係る手続き、施設検討等に関すること		
◎	1	学校改革推進課指導主事
	2	教育センター主任指導主事
	3	教育センター指導主事
	4	必由館高校事務室主査
	5	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	6	学校改革推進課主任主事

(6)通信制課程設置部会

通信制課程設置に係る手続き、システム構築に関すること		
◎	1	学校改革推進課指導主事
	2	教育センター指導主事（情報教育担当）
	3	学校改革推進課主任指導主事
	4	指導課主査（高校担当兼学校改革推進課）
	5	指導課指導主事（高校担当兼学校改革推進課）
	6	学校改革推進課主任主事

(7)施設整備部会

各校に必要な施設及び設備の整備に関すること		
◎	1	学校改革推進課主幹
	2	学校施設課主幹
	3	学校施設課主査
	4	教育センター主任指導主事
	5	教育センター指導主事
	6	指導課指導主事（高校担当兼学校改革推進課）
	7	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	8	学校改革推進課指導主事（中学校担当）
	9	学校改革推進課主任主事

(8)財政部会

改革に要する経費や、専門学校の授業料に関すること		
◎	1	学校改革推進課主幹
	2	学校施設課主幹
	3	教職員課主事
	4	学校改革推進課主任主事

(9)例規部会

法令の調査、改正等の検討に関すること		
◎	1	学校改革推進課指導主事
	2	指導課主査
	3	教育政策課主幹（専門学校関係）
	4	教職員課主幹（外部人材登用、給与条例関係）
	5	学校改革推進課主任主事

８　千原台高等学校及び総合ビジネス専門学校について

千原台高等学校及び総合ビジネス専門学校においては、市立高等学校等改革検討委員会答申や基本計画素案の趣旨を踏まえ、教職員、生徒、同窓会の３者が改革の意義、方向性について共有し、学校づくりへの生徒の参画、生徒の興味関心に応じた探究的な学びの推進、外部資源の活用等、様々な取組を段階的に進めているところ。

特に、ビジネス専門学校においては、昨年度より入試改革、教育課程の見直に取り組み、本年度の昼間部の入学者数は定員を上回るといった成果も出ている。

９　今後の対応について

(1)　必由館高等学校

教職員、生徒、同窓会へ改めて改革の意義、方向性等について、ご意見を伺いながら、引き続き協議を行う。必由館高等学校においては、教職員、生徒、同窓会が協議し、７月を目途に対案を作成する予定。計画策定については、その後の対案提示後の協議の状況等を踏まえ、改めて議決を求める。

(2)　千原台高等学校・総合ビジネス専門学校

両校においては、教職員、生徒、同窓会が改革に意義、方向性について共有し、既に様々な取組を段階的に進めていることから、令和５年度開校に向けて、市立高等学校・専門学校改革基本計画（千原台高等学校・総合ビジネス専門学校編）を策定し、取組を更に推進する。

両校においても、改革をより良いものとするため、教職員、生徒、同窓会との協議をこれまで同様、継続的に行っていく。

10 要望・陳情の内容

必由館高校生徒

熊本市立高校再編の延期・再検討を求める要望書

要望書

主旨

熊本市立高校再編の件について延期・再検討と普通科を残してくださいますようお願い申し上げます。

理由

今般、熊本市立高校再編において推進が図られようとしています熊本市立高校再編素案については、生徒の代表もこの再編素案ができる過程で会議などに参加したそうですが、全校生徒や卒業生などにアンケートをとることや意見を聞くことなどは全くなく、一生徒の意見だけを聞いたような状況です。再編素案では生徒の主体性や探究心とうたってはいるものの、この再編素案事態が突然言われた感があり、驚きです。私たちの主体性や探究心を育むどころか、考えることや悩む機会、熊本市の素晴らしい高校を守り、共に成長させていく機会まで奪われてしまっています。

つきましては、熊本市立高校再編素案については、現場の生徒や卒業生などの声がほとんど入っていないという観点から延期・再検討をしていただきますようお願いいたします。

さらにグローバル探究科については、英検一級の取得を目指すとなっていますが、AIなどの技術向上により、同時通訳機器なども出てきている中、英語を話せず、聞くことができなくても理解しあえる時代はもうすぐそこまで来ています。だから、どの高校も国際コースや英語科の入試倍率が落ち込んでいっているのではないでしょうか。これからは、多文化共生時代です。若いうちから何かに偏った学びをするのではなく、より多くの人と触れ合い、様々な経験をするべきです。そのような観点から、熊本市立必由館高校には、様々な人が幅広く学べる普通科を残していただきますようお願いいたします。

熊本市立高校再編の件について、change.orgにおいてオンライン署名を行い、現役の生徒や卒業生を中心に1100名程度の賛同も得ています。どうか延期・再検討と普通科を残してくださいますよう、生徒と熊本市民と共に素晴らしい高校を作ってくださいますようお願いいたします。

以上、要望いたします。

令和3年5月31日

必由館高校同窓会

熊本市立必由館高等学校の中高一貫化に対する慎重審議を求める陳情

熊本市にあっては、市立高等学校・専門学校の改革を進めておられますが、その趣旨・方向性については概ね賛成いたします。私たち卒業生としても、母校が特色ある学校として発展していくことは嬉しいことであります。

しかし、必由館高校の中高一貫化については、県内で先行実施された八代高校・宇土高校・玉名高校の事例でも分かるように、高校の活性化には繋がっていないことは明らかです。入試倍率の低下や入学者の減少は依然として続いていて、更には中学校の優秀な生徒の他高校への流出などが起きています。

また、同一の校舎に中学生と高校生が住み分けるという方法では、生徒たちが不便さを感じて、混乱するであろうことは容易に予想できます。また、中学校と高校のそれぞれに優秀な指導者の確保をすることや、学校行事や文化的・体育的な活動場面での場所の確保問題、部活動の活動場所の確保等も困難になることは目に見えています。在校生数の減少による部活動の衰退も起こると思います。

さらには、在校生や保護者、現場の先生方への丁寧な説明及び周知不足により、いたずらに混乱と不信を招いているのが今の現状です。

よって、以下の事項について陳情いたします。つきましては、貴議会においてより一層の慎重な審議を行っていただきたく、ご理解と協力をお願いいたします。

陳情事項

1. 必由館高校の改革については、中高一貫化を取りやめて、高校単独での特色化、魅力アップの施策を推進するように議会で議論を深めてください。

2. 今回の改革について、熊本市側は誠意を持って、しっかりと在校生や保護者会、学校の先生方、同窓会に説明し、真の理解を得て、ともに協力して改革を進めていけるように、議会として働きかけてください。

必由館高校教職員

現場の声を大切にした学校改革を求める陳情書

貴議会の本市教育推進に注がれる熱意に感謝いたします。

さてこのたび「市立高等学校・専門学校改革基本計画素案」が示されました。諸般の事情を考えますならば、高校教育の変革はいずれ避けられないものと推察いたします。ではありますが、示された必由館高校改革素案ならびに日程案を拝見したとき、いくつかの点で重大な懸念を覚えてその再検討を陳情する次第です。

今のところ改革の内容そのものは私には評価しきれません。私の能力の限界を超えるところです。ただその進め方の急さに驚き、率直にその懸念を表明し再考をお願いするものです。この陳情は、本校生徒会長が先日インターネット上に上げました意見（「必由館の未来を考える会」署名の呼びかけの件）が契機となっております。

さて陳情いたす項目は、

（一）令和５年度という開校予定にもうしばらくの猶予をいただきたいということ。

（二）現在、市に準備組織がありますが、本校職員も加わった形で現場準備室を立ち上げていただきたいということ。

以上の２点です。